



ファシリテーター

facilitator

永田 円了

創造性を伸ばす教育、リーダーシップ養成、コーチングなど、私たちは教育現場やビジネス現場を問わず、指導者養成に注目してきた。しかしながら、ファシリテーター（facilitator）の存在に気づくことは稀である。というのも、このファシリテーターの存在は、決してスポットライトを浴びるような、従来のリーダーシップではないからである。

ファシリテーターを一言でいえば、「物事を容易にする人」と定義できようが、なかなかコトバでは表しきれない。最近の事例としては、WBC 侍ジャパンの栗山英樹監督がこの役割を果たした。一人ひとりの選手が本来の力を十分に発揮できるよう、またその選手の人生にも目をむけた指導、脇役に徹したリーダーシップのスタイル、まさにファシリテーターそのものであった。

さて今回は、様々な場面でのファシリテーターの役割、また多様なファシリテーターの形を事例を伴って検証する。この役割をより明確にするために、反面教師的なリーダーシップの場面もとりあげ、そこからファシリテーターの本質を理解しようとするものである。



メンターとしてのファシリテーターの役割

プロゴルファー、横峯さくらさんの夫としてゴルフツアーに同行するようになって1年、夫でありメンターの役割を果たす森川陽太郎さんは、彼女のある癖に気づく。さくらさんは周りを見ていない！ ボールを拾いに行く時すら、視線を外さない。周りをシャットアウトするのが自分にとって一番集中できる状態だと信じ込んでいる彼女、ギャラリーの拍手すら無視していた。

「ギャラリーは敵じゃないんじゃない？」この森川さんの一言で、さくらさんの意識が変容する。それ以来、彼女はギャラリーの応援には意識的にニッコリして手を挙げて答えるようになった。頭でばかり「集中しよう集中しよう」と思えば思うほど、本来のパフォーマンスが発揮できない自分に気づく。「集中するなら“視野を広く”」、そのために陽太郎さんが指摘したのが、ギャラリーをしっかりと見ることだった。自分では気づかない自分の癖、これに気づくにはメンターの目が必要となる。

子どもの人生を決める一言

ファシリテーターとしての親の役割は大きい。米映画『バットマンビギンズ』の中、父親が暴漢に襲われる。死の間際に小学生の息子に言う「恐れるな！」（Don't be afraid!）。この一言がその後の息子の人生を決めることになるのである。

徹子の部屋で中井貴一氏が、幼少期に父親を交通事故で亡くしたことを語った。。4人を乗せた車が坂道で事故を起こし、不幸にも父親だけが亡くなった。母親は父親の死を、貴一さんには“運命”としか言わなかった。“誰かを恨む”ような人にはなかってほしくなかったのである。母親のこの一言が、その後の貴一氏の人生に大きな影響を与えたのであった。



<事例>

WBC 侍ジャパン・栗山英樹監督のリーダーシップ
 反面教師から学ぶファシリテーター／歌舞伎をゼロから教える
 ミュージカル『アニー』舞台監督としてのファシリテーター
 本田宗一郎・どなるファシリテーター／でも私心では怒らない
 メンタルトレーナー・森川陽太郎／横峯さくらのメンターとして
 ファシリテーターとしての親の役割／バットマンビギンズ／中井貴一（徹子の部屋）
 ファシリテーター・吉田松陰／曖昧さを見える形に
 スティーブ・ジョブズ／私を永平寺に行かせてください
 ファシリテーターとしての精神科医の仕事／米映画『普通の人々』
 一柳良雄が問う日本の未来／資生堂 CEO 魚谷雅彦
 教えようとしてはならないものがある／安積力也先生／こころの時代
 歌・さだまさし『いのちの理由』



WBC 侍ジャパン監督
栗山英樹 (61)